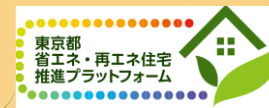


令和7年度 東京都省エネ・再エネ住宅普及促進セミナー

令和8年2月9日(月) 16:00~17:00 東京都庁第一本庁舎5階 大会議場



本セミナーでは、東京都省エネ・再エネプラットフォームに参加する団体会員の皆様を対象に、省エネや快適な住まいについて都民に普及啓発するための知識の供与や取組の紹介をしています。

今回は、日本の四季が失われ始め、夏と冬だけになる「二季」の言葉の生みの親であり、昨年の新語・流行語大賞を受賞した立花教授に気候変動問題をお話しいただきます。

申込はこちらから
(2月6日(金)12時まで)



「異常気象の未来予測 ーどうなる東京？ どうする都民！ー」

日本は世界有数の「スペシャル異常気象」地帯であり、熱中症による死亡者が年間2000人を越えました。温暖化は「沈みゆく熱帯の島の他人ごと」ではなく、「日本のわがごと」。このままでは、いずれ日本は「世界で最も住みにくい国」になりかねない。だからこそ脱炭素や気候変動適応では、首都である東京は世界のリーダーシップを取らねばならない。

三重大学
生物資源学部 生物資源学研究科 共生環境学専攻
地球環境学講座 気象・気候ダイナミクス研究室

教授 立花 義裕 氏



■プロフィール

わかりやすい解説には定評があり、「羽鳥慎一モーニングショー」をはじめニュース番組等に多数出演し、異常気象や気候危機の情報を精力的に発信。

札幌南高校卒。ワシントン大学等を経て、現職。
2025年の新語・流行語大賞で「二季」がトップテン受賞。2024年東海テレビ文化賞受賞。日本気象学会理事、日本雪氷学会理事。一般向けの著書「異常気象の未来予測」(ポプラ新書2025年7月発行)。